

令和6年度第3回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和6年7月8日（月） 14時00分～16時30分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して14名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ

（会長）

12日間で3回目の会議となります。短い期間で時間を調整頂きましたことを改めて御礼申し上げます。これまでの経験を振り返っても、全国に目を向けても、これほどの短期間で集中的に議論するということは無かったと思います。恐らく、大体の会議が成立しないのではないかと思います。この短期間で3回の会議を開催できることは、ここにいる皆様の御協力があるからこそであり、皆様の石巻に対する熱量、石巻の町の底力であると感じております。

また、短期間で議論をするということにメリットも感じております。前々回、前回の記憶が新しく、これまでの議論を繋げることができるのではないかなと考えております。

都市やまちづくりの問題・課題は広範囲にわたります。例えば、公共交通をどのように維持していくかということについて、学校や介護事業者、民間の有する輸送手段を総動員して取り組んでいきたいと思いますという、分野横断型で対応していかなければいけない問題が多くございます。個別最適な結果が全体最適ではないということです。

本日も各施策への評価になりますが、ぜひ、これまでの議論を踏まえて、評価・御意見を頂きたいと思っております。本日も厚みのある議題となっております。グループからの発言・質疑応答に十分な時間を確保することが難しい場面もあると思っておりますが、御理解のほどよろしくお願いいたします。会議で発言できなかったものにつきましては、ぜひ、意見シートに記載頂きたいようお願い申し上げます。

これまで積み上げてきた経験を存分に活かし、夏の思い出の1ページになるような熱い議論をお願い申し上げます。

3 議題

（1）第2次石巻市総合計画の令和5年度達成状況について

（資料4：各担当課）

基本計画

【第5章 第1節～第3節】

(委員)

校舎等整備事業完了件数に関連しての質問となりますが、最近「和式トイレは使ったことが無い」「和式トイレが使えない」という子どもがいて、小学校に入学する際に、わざわざ和式トイレに連れて行って使い方等を教えている保護者の方がいる旨話を聞きました。

現在、石巻市内の小中学校のトイレについて、どのような状況となっているのか教えていただきたいと思います。

(学校管理課)

洋式しか使えない児童生徒がどの程度いるかといった実態につきましては把握できておりませんが、トイレの洋式化については「設置率」というものを出しております。

令和5年度末の設置率について、校舎、体育館及び屋外プール等全体的なものとなりますが、小学校では66%程度、中学校では70%程度、両方合わせると67.9%となっております。

文部科学省において、全国の設置率平均を算定しておりますが、令和5年9月1日時点で68.3%であり、本市の設置率は全国平均を若干下回る結果となっております。

トイレの洋式化については重要な事業と捉えており、毎年限りある予算の中で年次計画を立てて整備し、設置率を上げていくために取り組んで参りたいと考えております。

(委員)

KPIの評価は全てaとなっておりますが、学校の先生方がこの評価を見たら同意すると思いますか。現在、学力テストでは宮城県が全国でも低いレベルであり、その中でも石巻市は低いという状況です。このような実態から言うと、この評価は業務管理上の見方でしかなくて、学校の授業運営から見た場合に乖離しているのではないかと感じました。低いレベルでの目標なので、パーセンテージとしては達成したという印象を私は受けました。

また、データとして後で欲しいのですが、不登校の生徒が年々どのように変化しているか、現状どのようになっているのか、それに対し具体的にカウンセラーがどのような指導を行っているのか教えていただきたいと思います。単にカウンセラーがいますといっても、児童生徒のことを一番近くで見ているのは担任の先生なので、その先生方とカウンセラーとの意見の乖離があるのではないかと思います。そのあたりの突っ込んだ議論がないと、単なるレポートを作成しているだけで終わってしまうような気がします。

石巻が発展するために1番大事なことは教育です。そのつもりで苦言を呈したいと思います。

(学校教育課)

学力テストが低いというお話がございましたが、その点から言うと、おっしゃるとおり、これから向上させていかなければならないところだと思います。現在本市においては「学力向上プラン」ということで、9年かけて学力を全国値まで引き上げようという取組をしておりますので、もう少々お時間をいただいて見守っていただければと考えております。なお、今回53ページに記載させていただいた部分は、学力の下地になる非認知能力を育てていくというところがありますので、そういった取組の成果として記載させていただいたところでございました。

現場との乖離というところでございますが、子どもたちが意欲的に取り組んでいるというところに関しましては、学校の現場でも同様に感じているのではないかと考えております。

不登校について、詳細なデータは手元にはございませんが、数値として増加傾向にあるというのはそのとおりかと思います。大切なのは一人一人に寄り添う、向き合うことであって、担任の先生、学校の先生が寄り添い向き合い、子どもの心に近づこうとしております。なお、カウンセラーは、基本的にはその話を聞くという立場にあり、指導するような立場ではございません。そのようなことで、まずは寄り添う、向き合うというところからスタートして、子どもが一步ずつでも前進できるような取組ということで考えておりますので、御理解を頂ければと思います。

(委員)

よろしくないと思います。文部科学省は現在、学校は「経営」と言っておりますが、学校は「運営」です。このように企業経営のようなことを教育上やっていること自体に疑問を感じないのが行政であるならば、本当に恥ずかしいことであると思います。

教育委員会が本当に学校の現場を熟知して、あと10年計画でレベルを上げるというのではなくて、来年にもやるくらいの気持ちが必要かと思います。秋田県は自殺が1番多い県だということで、そのために教育に力を入れたことで、現在日本一になりました。石巻はそんなに時間の余裕はないのです。

(委員)

安全に安心して学ぶための教育環境整備の推進について、取組や成果に長寿命化を図る石巻中学校校舎及び屋内運動場の改修工事の記載がございました。私も見て参りましたが、建物を生かしながら、生徒たちが使いやすいように検討されていると感じました。具体的には、武道館の建設や、以前PTAと一緒に作った日本間がうまく保存されているなどと思いました。このようなことは、学校現場の意見を十分に尊重しながら進めているのではないかと感じました。限られた予算の中で、石巻市は学校数が多いので、それをどのようにしていくかということは最重要課題なのではないかと思っています。

先ほどの第2グループの質問と共通いたしますが、社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実について、石巻市は不登校が多いと聞いております。学力の問題も然

りです。しかし、K P I にその視点が欠如しておりますので、今後どのようなK P I を設定すれば良いのか、十分に議論していただきたいと思います。

質問ですが、学校が楽しいと感じている児童生徒の割合について、これは市独自の調査なのでしょうか、全国的な学力調査の一部なのでしょうか。

(学校教育課)

全国学力・学習状況調査に入っていたものを捉えております。

(委員)

学校防災について、現在も各学校において訓練等を実施していると思いますが、やはり大切なのは、いかに子どもの命が大事かということであり、それを徹底して指導していただきたいと考えております。震災はいつどこで何が起こるか分かりません。震災が発生したときに、まずは命が大事だということを、毎朝朝礼等でしっかりと刷り込むくらい、児童生徒たちへの意識づけをする取組をお願いしたいと思っています。

最近、子どもだけではなく大人においても、命がすごく軽くなっているような感じがするので、その点について、学校防災も含め教育をしていただきたいと思います。

(学校安全推進課)

お話のとおり、子どもの命は大事でございます。本市の各学校においては、他の自治体以上に力を入れて子ども達の防災意識の向上に取り組んでおります。説明の中でお話ししましたが、昨年度、市内全ての小中学校において、総合防災訓練の日を登校日とし、地域との連携等も含めた形で訓練に参加しました。

今後も、学校をはじめ、地域の方とも連携しながら、子どもの命を守る取組を進めて参りたいと考えております。

(委員)

学力と不登校の問題について、他のグループから意見が出されておりましたが、K P I の見直しについて、私も今後十分な議論をして欲しいなと思っております。

1点質問させていただきます。昨年度の話ですが、タブレットについて、学校では電波が入るが、自宅に持ち帰ると電波が入らなくなるという事例があるとある学校の先生から聞いたことがあります。

現在、そのような状況にある子どもはどの程度いるのか、あるいはいないのか教えていただきたいと思います。

(学校管理課)

タブレットについて、いわゆるL T E通信という呼び方をする場合もありますが、モバイル通信を搭載しておりますので、W i - F i 環境が無くても、自宅等でいつでも通信環境は整っていると考えております。

W i - F i 環境が無い家庭もありますし、W i - F i 環境を通じてタブレットを利用している児童生徒もいらっしゃるかと思います。それは状況によって変わっ

てくると考えます。

本市の考え方としては、通信環境はモバイル通信がございますので、自宅に戻っても、あるいは学校から離れて校外学習や修学旅行の現場に持っていけば、そこで通常の通信を使えると考えております。

(会長)

たくさんの御意見・御質問を頂戴しありがとうございました。教育に関しては私自身も非常に大切な分野であると考えております。不登校の問題等も、現在色々取り沙汰されておりますが、フリースクールですとか、必ず学校に通わなければならないという価値観からも少し変わってきているかと思いますので、多様な学び方も踏まえて、どのように石巻が様々な学びの選択肢を用意できるか、検討していければよいのかなと感じました。

【第5章 第4節～第6節】

(委員)

生涯学習について、本当に様々な取組を各公民館単位で行っており、教育委員会においても様々な企画を行っておられると思います。

現在、民間においても様々な団体が、地域の子ども達を集めて子ども食堂や子どものためのイベントを企画しておりますので、可能であればそのような団体をうまく活用していただきたいと思います。

ふるさと子どもカレッジもそうですが、どうしても親がかかりきりでなければならぬところがあり、参加が難しい子どもがいると思います。そのような子どもを拾い上げ、参加させてあげられるようなきっかけづくりが必要なのではないかと思いました。そのような意味からも、様々な団体を活用していただきたいと考えております。

ジュニアリーダーに関して、昔と違って現在は育成会の活動がなかなか難しくなっており、ラジオ体操ひとつをとっても、昔は夏休み期間に毎日であったのに対し、現在は数日間しか親の都合もありできていないようです。そういったところも、育成会だけに任せっぱなしにするのではなく、町内会の世話好きの方々にも御協力をいただいて、町内会と一緒に企画できるようにすると、もう少し隣の家や近所の人たちとの付き合いも広がっていくのかなと思います。反対に、今それをしないと、今後「地域で子どもを育てていく」という意識が一層薄くなってしまうのではないかと心配しており、ぜひ、私達民間も活用していただき、やっていただきたいなと思いました。

(生涯学習課)

ふるさと子どもカレッジについて、確かに保護者の方が集合場所まで連れてきていただくという事業となっており、土日に仕事をされている保護者の方もいらっしゃいますので、その点で伸び悩んでいるのかなという部分がございます。送り迎え

の事故というところにも十分に気を付けながらというところではありますが、NPO等の団体と協力して実施させていただきたいと考えております。

ジュニアリーダーの関係について、確かに子ども会の活動が低迷しているというところで、町内会活動というお話もございました。令和5年度に関しては、例えば南浜の夏祭り、大街道の夏祭りへのジュニアリーダーの派遣等、地域と一緒にやれる部分も、現在始めているところがございます。また、石巻商業高校で行われた「ケアブレンドカフェ」という多世代の居場所づくりの部分で、共同して運営するというような新しい取組も徐々に広げつつございます。

近所付き合いというのも、確かにお話のとおりであると考えており、当然ジュニアリーダーの活躍もそうですが、家庭教育学級はじめ、放課後子ども教室等、様々な部分で学校と地域、協働しながら教育活動ができるように取り組んで参りたいと考えております。

(委員)

ふるさと子どもカレッジのような機会を作っており、そこで7回も集まれば仲良くなり顔見知りになると思います。例えばそのような子どもたちに、ジュニアリーダーになりたい子を募っていく等、継続したうまい流れができれば、もう少し活発になるのではないかと思います。

また、せっかく石巻市には川開き祭りがあり、以前はジュニアリーダーがごみステーション等の手伝いをしていたり、色々と活躍する場を設けていたと思います。石巻市も川開きは共催しているので、川開き祭り等においても活躍の場を作ってあげたらよいのかなと思います。

(委員)

スポーツは非常に大切であると思っております。ツールド東北等でも大手スポンサーが抜けてしまって、人数が少なくなるという方向になると、やはり市民の皆さんで活動出来て、皆さんで応援できるような部分で頑張っていけたらなということもあり、生涯スポーツに関してはこれからも継続的に議論をしていって欲しいと考えております。

育成会について、一生懸命頑張られている学校もありますし、一切育成会にはタッチしないという学校の校長先生のお話も聞いたことがあります。その中で、先日育成会の総会があり、私が所属する育成会の役員が派遣で参加したのですが、結構ずさんな経理体制といいますか、予算組みもされているみたいで、そこにジュニアリーダーが派遣されたりしているようです。各子ども会に石巻市の封筒で通知を送るようなのですが、毎年、保険料として200～300円程度徴収されています。私が所属する子ども会でも、参加している子もいれば、全く参加しないところもあります。市として、育成会にどこまで深く繋がっているのかという部分が知りたいです。また、これから子ども会の縮小であったり、今後難しくなってきたときに、育成会に対する思い入れ、どこまで市・教育委員会が力を入れているのかというこ

とについてお聞かせ願いたいと思います。

(生涯学習課)

育成会との関わりについて、やはり育成会はそれぞれで活動している団体になりますので、市が直接そこに入っていったって何かを言える立場ではないというのが正直なところですよ。

育成会として様々な活動をされる中で、例えばその事業をやる際の会場の確保、講師の紹介等で御協力をさせていただいている部分もございます。そちらについても、こちらから売り込んでいくというのは難しいのですが、活動計画等に沿って、支援できる場所について支援していくということで今後対応して参りたいと考えております。

(委員)

私の学校では、全く育成会との関わりという部分が分からなかったものですから、各学校の中でも育成会という部分についてよく分からないままで、石巻市の封筒が送られてきて、保険料を支払っているところもあるかと思います。

全く活動していないにも関わらず保険料は取られると思っていらっしゃる地区会長もいらっしゃるの、しっかり分かるような形にしてもらえれば良いなと思っております。

(生涯学習課)

直接会計等のほうにお話できる立場ではないのですが、そういったお声があるということをお伝えできれば良いなと思います。

(委員)

ジュニアリーダーの活動数なのですが、411.6%ともの凄く増えております。これは新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによって増加したものなのか、内容を教えていただきたいと思います。

また、いしのまき復興マラソンについて、なぜ令和4年度より大幅に参加者が減少したのか、その原因についても教えていただきたいと思います。

(生涯学習課)

ジュニアリーダーの活動数について、本目標値については恐れ入りますがコロナ禍を基準に設定していたものであり、現在その数値の見直しを検討しております。また、KPIがこちらで良いのかということも、後期計画の中で精査して参りたいと考えております。

(スポーツ振興課)

いしのまき復興マラソンについて、前年度から792人ほど参加者が減っております。減少要因といたしましては、いしのまき復興マラソンの後に、より大きなイベントがあり、そちらの大会を重視される方が多く、キャンセルされた方が多いと分析しております。

その他、コース上の悪臭、コースの減少等の理由により、満足度が少々低かった

のかなと考えております。

(委員)

小学校低学年を対象としたキッズバラエティスポーツ教室について、私の地元では、市内で色々やっているが、何かどこか知らないところで開催されているような感じになっております。なぜかという、このようなイベントに参加する場合は、先ほども意見があったように保護者がついていかなければならないので、地理的条件でこのような行事に参加したくてもできないという家庭があることも知っていただきたいと思います。ですので、より多く参加できるような改善方法を考えていただきたと思うほか、様々な場所で開催しても良いのではないかと思います。

(生涯学習課)

ふるさと子どもカレッジですが、今年度のプログラムの7回目はホエールランドの見学を予定しております。本来は7回全て参加していただくというものではございますが、今回この部分だけというのも可能としております。昨日、遊楽館で1回目のプログラムを開催いたしました。河南地区のお子さんは直接会場に行くということも許容させていただいており、ある程度柔軟性を持たせていただいております。

保護者の方が送迎できないという部分についてどのような対応ができるか、NPOをはじめ様々なところと協議をさせていただき、検討させていただきたいと思います。

(委員)

体育施設利用者数について、この数字はどこの施設を使った場合にカウントされるのか、教えていただきたいと思います。

また、この数字は市の行事の参加者数と私は理解しているのですが、スポーツジムなど民間においても様々なスポーツ施設があると思うのですが、今後はそのようなところも勘案していただければと思います。

その他、民間で行っているイベント等は結構いい企画があったりするので、そういったものも参考にいただければと思います。

(スポーツ振興課)

体育施設利用者数について、こちらは石巻地区全地区におけるスポーツ施設でございます。石巻地区で言いますと、石巻野球場、山下屋内運動場、蛇田中央公園、万石浦公園、総合運動公園、総合体育館の利用者数でございます。河北地区は、飯野体育研修センター、河北総合センター、追波川運動公園の利用者数でございます。雄勝地区は雄勝体育施設の利用者数でございます。河南地区は、河南中央公園、押切沼公園、河南水辺の楽校公園、遊楽館のアリーナ・トレーニング室・屋内プールの利用者数でございます。北上地区は、にっこりサンパークのテニスコートの利用者数でございます。桃生地区は、桃生スポーツ施設の野球場・多目的グラウンド・テニスコート、桃生農業者トレーニングセンター、桃生勤労青少年ホーム、

桃生植立山公園のソフトボール場・テニスコート・パークゴルフ場、桃生武道館の利用者数でございます。牡鹿地区は、牡鹿清崎運動公園の野球場・テニスコート、牡鹿交流センターの屋内プール・トレーニングジムの利用者数でございます。以上の合計で、５０３，７５６名の利用がございました。

民間のイベントとの協力について、各プロスポーツ団体との委託契約等により、企画提案しておりますので、今後も民間のノウハウを活用しながら、より参加いただけるスポーツイベントを実施していきたいと考えております。

(委員)

市の体育施設がたくさんあるのだなと驚きました。その割には、５０万人は少々少ないかなと感じました。あとはやはり、教えていただけるかは分かりませんが、民間のジム等の数字を捉えられれば良いと思います。ジムであれば年間何人程度利用しているか等、そのようなものを捉えられれば、健康維持に努めている方がどれほどいらっしゃるか分かるのではないかと思います。

【第６章 第１節～第２節】

(委員)

第１節 市民に寄り添い信頼される行政運営の推進について、令和５年度の主な取組や成果、主な課題、改善した点・方向性、ＫＰＩが連動して非常に分かりやすい説明でした。

(委員)

ＬＩＮＥ公式アカウントについて、やはり市民の、とりわけ若い方に対しての情報発信手段としてはとても良いツールですので、積極的に活用していただきたいと思います。これについては、もっと目標設定を高くしても良いのではないかと考えております。

持続可能な行財政運営の推進については、人口減少がやはり一番大きなテーマであると思います。自然減と社会減がございますが、社会減をどのようにして少なくしていくか。こちらについて、徹底的に抗っていくやり方をしないといけないのではないかと考えております。

私は、石巻はいい街であると思っております。いい街だと思う人がもっといて欲しいと思います。オール市民が、石巻はとてもいい街だと言って、だから石巻に残って暮らしていきましょうという運動が、私はもっとあっていいと思います。これは行政の方だけではなく、ありとあらゆる団体を通じて、もっとけしかけるべきであると思います。

(秘書広報課)

ＬＩＮＥについて、これからも頑張って参りたいと思います。令和６年６月３０日時点で１６，９２７人と順調に毎月１００～２００人程度増えている状況です。悪い情報といたしましては、ブロックされる件数も増えており、計１，２００件ほ

どブロックがございます。ですので、あまりプッシュしすぎてもブロックされるところがございますので、加減をうまく調節しながら、必要な情報が伝わるようにして参りたいと思います。

(委員)

財政調整基金について、今現在どの程度あるのか教えていただきたいと思います。

また、本来であればプライマリーバランスをゼロに持っていくのが一番いい財政計画であると思うのですが、これを毎年、令和5年度であれば22.4億円、令和7年度であれば12.4億円という形で取り崩しをしていくと、いつかは残高がゼロになってしまうというふうに認識しております。これで22.4億円を20億円取り崩してペイなのかという部分について、教えていただきたいと思います。

(財政課)

財政調整基金残高について、令和6年6月補正に対応した時点で、令和6年度末残高は56.7億円でございます。

こちらに記載いたしました目標値につきましては、令和元年度に基準値として設定いたしました財政収支見通しから数値を設定しており、その後、財政の運営をする中で、目標値の修正を見直す時期でもございましたので、今後改めていきたいと考えております。

なお、その年の決算、それから歳入歳出の差し引きで翌年度へ繰り越す余剰金等も含めると、それぞれの目標値に係る取崩額は変化しており、都度3年度の収支見通しを設定しながら現在運営をしている状況でございます。

本市における標準的な財政調整基金残高につきましては、20～40億を基準として運営しており、今後災害等にも備え、一定程度20億円以上を確保できるような財政運営を図っております。

(委員)

人口の増減について、この課題ではなかなか達成するのは難しいと思いますが、働いている方のお話を聞くと、結構東松島市に住んでいて、石巻市で働いているという方が多いという印象です。ですので、やはり他の委員の方からもお話がありましたとおり、石巻にもっと愛着を持っていただくことにより、石巻のためになにかをしようという気持ちになるのではないかと思いますので、石巻に住む人をどのように増やすかということにもう少し力を入れていただきたいというのが意見でございます。

業務が効率化した課の割合について、令和5年度で91%であり、こちらは令和7年度最終目標の80%をすでに超えている数値でございますが、本当に91%なのかと感じます。目標値の考え方に、デジタル技術の利用権限を有する課に対してアンケート調査を行うと記載があり、そもそもデジタル技術の利用権限を有する課というのがよく分かってないのですが、今までデジタルを使っていない課がデジタル技術を導入する等、そのような考え方もあるのではないかと考えており、何をもって90%になったか詳細を教えていただければと思います。

(D X推進課)

アンケート調査について、ロゴフォームという集計を効率化するシステムを使用している課に対し、ロゴフォームを使用したことにより「業務が効率化したと感じている」「業務が効率化していないと感じる」というようなレベルの回答をいただいているものでございます。そちらのアンケートの結果、90%程度がアンケート調査等でロゴフォームを使用したことにより、業務が効率化したという回答であったものです。

(委員)

御回答いただいた内容で、デジタル化して効率化したというのは、少々評価的に難しいのではないかと感じます。

(委員)

L I N Eについては、今後とも増やしていただきたいと思います。市報よりも、やはりインパクトがございました。私は市報だと見出しだけ見て終わりになるのですが、L I N Eだとやはり読みます。今後もし可能であれば、イベントや防災はもちろんのこと、分野を絞って選択し、必要な情報だけ送っていただくというようなシステムも考えられるのかなと思います。

財政調整基金について、段々減っていくのが心配なところではございますが、ふるさと納税を増やすしかないのではないかとこの意見もグループ内ででましたので、引き続きふるさと納税を増やすことに御尽力いただければと思います。

第2期 復興創生期間に係る対応方針

地方創生の取組

(委員)

石巻の子どもたちに、地元の良さを知ってもらうために、小学校、中学校、高校での出前授業を、学校の先生方が見てきたものを伝えるものではなく、各業界の方に講師として来ていただき、生き生きとしたものにしていただきたいと思います。

また、新卒の学生向けの企業説明会について、前回の会議では十分に実施しているような印象を受けたのですが、業界に戻って話を聞いたところ、抽選で外れた企業もあるとのことで、体育館ばかりではなく、様々な場所を使ってでも、工夫して実施していただきたいと思います。実施主体がどこになるかは分かりませんが、市がイニシアチブをとって、ぜひ業界が物足りないということのないような企業説明会にしていいただければと思います。

石巻には、世界的に有名な3名の方がいます。日本人モーゼと言われたフランク安田。人権派弁護士でガンジー並みの評価を受けている布施辰治。考える人で有名なロダンに匹敵する彫刻家、高橋英吉。この3名について、もう少し石巻市民はプライドをもって欲しいと思います。ぜひ、現在石巻に2体ある高橋英吉氏

の像を石巻駅前に移設し、水産都市石巻のシンボルとして欲しいと思います。

(委員)

ハイブリッドリユース事業によって生産されたグリーンスローモビリティを現在蛇田で行っているわけですが、私は、石巻を実験都市にして欲しいと考えております。日本中の大企業が未来をかけて開発している技術、それから経済産業省等が所管している新しいチャレンジングな技術について、実際の街に落とし込むという候補地は、実はあるようにして無いです。人口減少社会や高齢化社会といった社会課題を解決するための実験シティとして、石巻市はそのようなものの導入に積極的に手を挙げていただきたいと思います。と思っています。

(委員)

人口戦略の対応方針3の指標について、指標の考え方で「女性の流出を抑え、女性人口を維持する」というのが強調されているように感じますが、実際のところ、卒業して進学・就職する時点で、地元に残るか否かある程度決められているものだと思います。ですので、高校を卒業する前に、女性に限らず、例えば高校2年生あたりで「卒業したら進学するか、就職するか、就職するのであればどのような業種を考えているか」といったアンケート等をとって、それに見合った業種が市内に少なかったら、それを誘致してくるような考え方もある程度必要なのではないかなと考えました。

(委員)

人口減少対策について、グループで色々と考え意見を頂いたのですが、とにかく様々な要素が複雑に絡み合っていて、具体的な案は出ませんでした。

(委員)

行政において少子化問題と言いながら、具体的に何を行っていくのかということだと思います。私もそちらのほうに関わっているもので、現在婚活事業を積極的行っております。先日も実施いたしまして、5人ずつの募集をしたところ、10人ずつ集まり、3組のカップルができました。なぜこうなったかというと、会費を無料に致しました。

行政の方をお願いしたいのは、例えば結婚したならば50～100万円支給するというように、若い人が食らいつくようなもっと大胆な取組を行うことです。その財源はどこから持ってくるのかと行政の方は思われると思いますが、企業からの寄付で基金を作れば良いと思います。これは将来の石巻のためには絶対に必要であると思います。中途半端に1～2万もらったとしてもどこにも足りません。大きな希望を持って、将来のために投資するのですから、それくらいの気持ちがないと、少子化問題は絶対に解決できないと思います。

(委員)

心の復興の助成金について、令和7年度までということですが、恐らくNPO等が利用しているものであると思います。各団体の自走化が課題とのことです。

が、ここのところをどのようにつなげていくのかがすごく大事だと思いますので、ぜひ政策をよろしく願いいたします。

先日、娘の友達が東京から来て石巻を案内したのですが、食べ物もおいしいし、空気も良いし、何より涼しい、ずっと住みたいと皆言っていました。しかし、どこで働こうかなということを話していました。そうなったときに、石巻に住むとこんなメリットがある、こんな楽しいことがある、とても魅力的なまちということをもっとアピールして、石巻を良い街というイメージにすることによって、若い人がいっぱい来てくれるのではないかと思いますので、この総合計画すべてにおいてですが、魅力のある街をぜひ、私たちの意見も取り入れながら作っていただければと思います。

（２） 地方創生関係交付金事業の令和６年度達成状況について

（資料６：ＳＤＧｓ移住定住推進課）

（委員）

やはり委員の皆様お話のとおり、石巻はすごく魅力のある街だと私もずっと思っております。そのような中、働く場所や出生率の問題等出てくると思いますが、これから先の石巻の基盤になる企業、基盤となるものがあれば良いと考えており、例えば、石巻専修大学に新たな学部を設けていただいて、そこから何か石巻に新しいビジネスが生まれていけば良いと思っております。国においても、自衛隊が今後宇宙航空自衛隊と名前が変わってくると思っていますので、例えば宇宙産業に関わる学部を設置し、宇宙ビジネスで新しい石巻を発信できれば、様々な企業も来るのではないかと思います。また、石巻はマンガの街ですので、漫画家を育成し、発信するというのも良いと思います。

これらは何十年スパンを見て構わないと思います。目先のことだけではなく、長い視点で新しい方向に向かっていただければと考えております。

（委員）

現実的なお話をいたしますと、企業経営をされていて、ハローワーク等を通じて常に募集を出しておりますが、なかなか応募がございません。これは商工会議所の様々な経営者が同様のことをお話されております。

ではなぜ応募がないのかと考えたときに、働ける方はすでに働いているのかなと思います。それ以外の方について、何にも興味がなくて働かないのか、それとも自分が働こうと思っている職種がないのか。現在、高校のキャリア教育にも関わっているのですが、話を伺うと、高校生の多くが事務職を希望しているようです。ところが、各会社で事務職は１～２名程度いれば十分事足りていて、１度入った方が辞めることは少ないのが現状であり、事務職をなかなか採用しないという現実があります。石巻市は製造業やサービス業等、どちらかというとそのようなニーズが多く、学校から出てくるニーズとミスマッチが生じているような気が

します。

そのため、そこをもう少し厳密にしっかりと詰めていかなければならないと思います。例えば、高校の就職担当の先生方、大学の就職担当の先生方、そして地元企業の経営者が色々考えて行っていくことが重要であるほか、先に意見がありました新たなビジネスの創出という点で、やはりある程度高学歴で、知識を生かした仕事を作らないと、課題は解決しないと思います。

ですので、トータルのどこに視点を持っていくか、10年後の石巻をどこに持っていくのか。若い世代が生き生きと働く街なのか、それとも学力が優秀な子が集まる街なのか、様々な事をトータルで考えて、次の総合計画に生かしていかなければならないと思います。総じたことはこの街でも行っていますし、総じた課題に関してはどこの地域でも課題として取り組んでいると思います。アニメでもいいので、何かに特化したビジネスやその働く場所、それから生き生きと生きる場所というのを行っていくことが求められていると思います。

(委員)

オリーブについて、生産されたオリーブオイルのクオリティが非常に高いとすでに一部で評価されておりますので、それをブランド化することが必要だと思います。しかし、作付面積がおそらく少ないので、まだいわゆるビジネスに乗らない段階だと思います。何とか作付面積を増やしていただいて、新たな担い手を見つけるような活動をしていけば、新しい石巻の地場産品として定着する可能性はあると思います。

石巻市まち・ひと・しごと創生推進計画のKPIの中に就職割合がありますが、先ほど委員から、就職説明会への参加をスペースの関係で断れた企業がある旨話がありました。限られた場所で行っているので、スペースの問題があると思いますが、現在は様々な技術がある時代ですので、大きなタッチパネルを用意して、漏れてしまった企業はオンラインという形にする等、そういったこともできるかと思います。石巻にはこんなにたくさん会社があるということを1社でも多くPRできるようにすることが必要なのではないかなと感じました。

(委員)

オリーブについて、就業者が2人増えたというのはとても良かったです。現在、オリーブオイルはすごくブームなので、今後どんどん広がっていったら石巻の地場産品として、生産量を増やしていただきブランド化していただければと考えております。

石巻はたくさん魅力がある中で、何が足りないのだろうかということを考えたときに、やはり先ほども意見に上がりましたが、雇用のミスマッチが大きいと思いますので、職場体験等どんどん増やして、学生のうちから様々な職場を経験したりすることによって、営業職やサービス職もこんなに楽しいんだということを、ぜひ子どもたちのキャリア教育として積極的に行っていくのが大事なかなと感じました。

5 閉会あいさつ

(委員)

3回連続の会議、大変お疲れさまでした。このようなグループ形式でなければ、これだけの意見は出なかっただろうなと思います。私もグループの中で色々な方と意見を交わすことができ、自身の学びになっております。

第1回会議の際に庄子会長から消滅可能性自治体の話がありました。全国744自治体のうち4割が消滅するという衝撃的な記事が載りましたが、宮城県では35自治体のうち19自治体が消滅可能性にあるとされております。一方、10年前は23自治体が消滅可能性にあるとされており、この10年で4自治体が消滅可能性から抜けていることとなります。

本日、委員の皆様からたくさんお話があったように、石巻にはいいものがたくさんあります。頑張っている方もたくさんおられます。あとは何が大切かというところ、「石巻市というのはどのようなまちを目指しているのか」という確たる根っこを作り、そのための施策を委員の皆様からの意見を大事にしながら進めていけば、次の計画に結び付くのかなということを強く感じております。

我々1人の市民としても、行政と連携をとりながら、より良い石巻のために努力していきたいと考えております。そのためにも、今回の第3回の評価を厳しくきちっとしていただいて、次の施策に生かしていただければなと考えております。

石巻市総合計画推進会議委員人簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	欠席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	出席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	欠席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	出席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	近藤 浩之	いしのまき農業協同組合	欠席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	欠席
14	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	千葉 新一	河南地域まちづくり委員会	欠席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	欠席
21	花岡 徹	石巻金融団	欠席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	欠席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	出席
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	芥藤 喜浩	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	出席
2	石川 佳洋	宮城県東部地方振興事務所	欠席
3	鐺木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席

令和6年7月8日現在（敬称略）